

第164号 発行日 平成22年8月4日

合格通信

今
月
の
名
言

人生における最優先事項は
成し遂げたい目標を持って事
にあたることだ。

パブロ・カザルスー
(スペイン、チェリスト)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さん
とお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ
話題をお届けする情報誌です。



猛暑・・・上京一年目を思い出します

上京1年目、東北人の僕には東京の夏の暑さは体験したことのないもので、
35度となった日は暑さのあまり、まったく身動きできませんでした。音楽を聴く気にも、本を読む
気にもなれないのです。当時の下宿、八王子市長沼(なんと田んぼがありました)のアパートにはエ
アコンなどあるはずもなく、扇風機でしのいでいましたが、この暑さになると熱風しか来ず、何かの
情報で扇風機の後ろに氷で冷やした濡れタオルをかけるとエアコン効果があるというので実行して
みると案の定焼け石に水、むしろ湿度が上がって不快感増。コーラ飲んだりアイス
を食ったりしてましたがラチが明かず、次の日からは冷房の効いている学校の図書館へ行くことに。

中央大学はもともと御茶ノ水にあったのですが校舎が手狭になったのでその後八王子市に移転、僕
が入学したときは3年目で校舎は真新しいものでした。京王線の特急が止まる「高幡不動」で乗り換
え、そこから一駅「多摩動物公園」(コアラがいます)で下車。ここから徒歩15分、平坦な道から途
中坂道となり、なんと校門に入る手前でトンネルをくぐります。夏休み中は学校内も
閑散としており、それでも図書館には司法試験の受験生や公認会計士を受験する学生が参考書を積み
上げて一日中図書館にこもって勉強してました。あるときずっと座りっぱなしの姿勢で疲れるので、
空いているからいいだろうとソファに横になっていると、職員のおじさんがやってきて「寝るん
だったら、家帰って寝なさい」と言われ恥かきました。

私立大学の夏休みは2ヶ月あり暇をもてあますの
ですが、石巻に帰っても面白くもなんともないので、
友人たちは帰省しましたが、僕の場合はお盆過ぎま
で帰らず、暑さのきびしくない日には、中央線、小
田急線、京王線、井の頭線沿線途中下車の旅のよう
なことをやって東京中をさまよっていました。下車
していくところは決まっています。

東京35度

身動きとれず



・・・続く